

令和6年度 学校評価 (年度末評価)

本年度の重点目標		<p>【スローガン】</p> <p>「自分がすき・みんながすき・学校がすき」</p> <p>① 個に応じた指導の充実</p> <p>② 安全で安心して学べる学校づくり</p> <p>③ つながりのある教育活動の実践</p> <p>④ 働きやすい職場づくり</p>	
項目担当	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
総務	④ 校内掲示板や広報活動の充実	・見やすい学校だよりを作成し、ホームページやグループウェアを有効活用する。	・各学校の学校だよりを参考に構成を検討した。個人情報の適切な取扱いに留意した上で、ペーパーレスを進められるよう、今後も検討していく必要がある。月予定表では、教育支援システムのグループウェアを活用することで業務改善につながった。
教務	③ 学習指導要領に基づいた指導と評価の一体化の充実	・個別の教育支援計画、個別の指導計画作成において、育成したい能力を見据えた目標だて、指導内容の計画を行う。	・全ての部において、個別の指導計画へ目標と手だてを併記するようになった。目標、学習内容、評価のつながりを意識した指導を充実していく。また、評価に応じて手だてや指導内容を見直し、改善を加えることを今後も周知していく。
生徒指導	② 安全な通学環境の整備	・スクールバス8コースの安全管理、運行の適正化に努める。	・各コースともに、概ねスムーズに運行ができた。来年度の運行に向けて、各バス停の時刻や運行経路の見直しを行った。
進路指導	③ キャリア教育の充実と地域連携	・進路に関わる情報発信を充実させ、校内、関係諸機関との情報交換を密に行う。	・講話会開催や進路だよりを発行することで一定の情報発信ができた。今後も、保護者の知りたい内容の把握や、わかりやすい情報発信に努めたい。
保健体育	② 安全な教育環境の構築	・食物アレルギーのある児童生徒に対する適切な給食提供や対応について、全教職員間で共通理解を図る。	・学校保健委員会や食育推進・給食委員会、回覧等を活用し、情報共有を図った。食物アレルギー等対応に変更が生じたときに、間違いのないように食物アレルギー等対応一覧表の変更ができる体制を整えた。食物アレルギー等対応が必要な児童生徒の校外喫食の手順について、職員に年度の初めに確実に周知する必要がある。
研修	① 職員の専門性の向上	・現職研修を充実させる。 ・教育実習を計画的に進める。	・いろいろな研修を通して、幅広い知識や技能を習得できた。他校の研修内容等を参考にし、次年度も充実した研修にしていきたい。 ・関係する資料を大幅に修正し、提出の

			流れをより分かりやすくした。次年度は前期も実施するため、より計画的に進められるようにしていきたい。
視聴覚	④ 視聴覚機器の有効利用を推進する。	・視聴覚準備室や視聴覚機器の整備や整理を行う。	・消耗品や廃棄物品の整理を行い、視聴覚物品を利用しやすいように環境整備に取り組んだ。老朽化による機器の交換に計画的に対応していきたい。
情報	② 教員の情報活用技能およびセキュリティ意識の向上	・教員用タブレットパソコン等の利用について、有効活用やトラブル等への日常的なサポートを行う。 ・担任や学年、生徒指導部等との連携を密にして、情報モラル教育を進めていく。	・教員に向け、パソコン等の設定やプリンタも含めた機器の利用に際して、日常的に適切なサポートができた。パソコンの設定については、今後も適時変わることがあるため、その都度サポートできるようにしていく必要がある。 ・生徒指導部と協力しながら、適時情報モラル教育を進めることができた。今後も引き続き、研修等をとおして児童生徒ばかりでなく、職員についても情報モラルについての知識を深められると良い。
教育支援	③ センターの機能の向上	・地域の保護者や教員を対象に、検討会や相談活動、研修会等を実施する。	・相談活動や研修会をとおして、地域の保護者や教員の抱える課題に向き合い、共に解決方法を考えることができた。今後も関係機関と連携しながら、特別支援教育のセンター的役割として、地域支援活動の充実を図りたい。
自立活動	① 学習指導支援の充実	・自立活動の教材・教具を授業等で有効活用できるよう整理し、紹介する。 ・チェックシートを個別の年間指導計画の作成や自立活動の指導に活用できるようにする。	・研修会「じかつラボ」の開催や、自立活動通信の発行、掲示板（じかつコーナー）での教材等の紹介など、授業で活用できる情報の発信を行った。 ・チェックシートや流れ図のよりよい活用方法について検討したい。
小学部	① 基本的な生活習慣や日常生活における基本的な力の育成	・児童の発達段階を自立活動のチェックリスト等を活用して捉え、個々の指導計画を基に、学校生活全般の中で指導を行う。	・学年会、ケース会等を活用し指導計画、内容を共有して個々の実態や評価を踏まえた指導をすることができた。
中学部	① 生徒全員が「分かった」「できた」「やってみよう」と思える授業づくり	・生徒の実態や障害の特性に合った題材や単元を考えたり、ICTを始めとした教材・教具の工夫や環境整備をしたりすることで生徒自身が課題を理解し、自分から取り組めるようにする。	・個々の生徒について学年の教師間で情報共有し、生徒の興味・関心や実態に即した課題を設定すると共に ICT などを活用しながら教材の工夫をすることで生徒自ら取り組む姿が見られた。

高等部	① 自立と社会参加を実現する力の育成	・学校生活におけるさまざまな行事や活動を通して、主体的に学び、課題を解決していく力を育成する。	・新しい作業班の試行や近隣企業から多様な資材提供を受けた校内実習、一宮市総合体育館での運動会など、学習意欲や興味・関心を高める取組を工夫することで、生徒が主体的に生き生きと活動する様子が多く見られ、自立に向けた自信につなげることができた。
-----	--------------------	-------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【学校関係者評価を実施する主な項目】

項 目	年 度 末 評 価
笑顔のある安全・安心な学校づくり	南海トラフ地震に関する情報が発表されたことをきっかけに、具体的な対応について改めて確認するとともに、児童生徒の緊急時における引き渡し方法についても対応できるように職員の動きを検討した。夏場の熱中症対策については体育館に整備されたエアコンを活用しながら、今後も引き続き注意を怠らないようにしていきたい。来年度から再開される水泳指導に向けて、今年度中にできるだけ準備を進め、安全に実施できる体制づくりを構築したい。
12年間を見据えた、継続性・系統性を考慮した教育活動の推進	系統性のある指導に役立てられるように作成した「学習評価一覧表」を活用し、関わる教師が共通の目標を意識しながらの指導がよりしやすくなった。教師間や保護者により伝わりやすい書き方について検証をしていきたい。
組織的な実態把握と情報共有、相談体制によるいじめの防止	いじめ・不登校対策委員会や生活指導委員会などを通じて、児童生徒の登校状況や特に問題となる生徒指導上の問題を学校全体で把握し、早目に対応することで、重大な事故や事件を防ぐことができた。関係機関とのケース会を積極的に開催し、情報共有を図ることで、連携を深めることができた。
勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害防止に関する取組	マチコミによる欠席等連絡を導入し、保護者・職員が効率的に出席状況を把握できるようにした。今後も定期的にお知らせすることにより、一層の定着を図りたい。長時間労働については、顕著な長時間在校職員は減少傾向にある。学期はじめや学期末、行事前などの繁忙期については、さらなる業務の精選や効率化を進め、また、計画的に業務を進めるよう呼びかけを継続することで、職員の意識を変えていく。